

令和3年度 福岡市美術館協議会 会議録

日 時	令和4年1月31日（月）15:00～16:30
場 所	福岡アジア美術館 会議室
出席者	協議会委員：浦上会長外 計7名 福岡市美術館：中山総館長外 計7名 福岡アジア美術館：山方総館長外 計6名
議題	(1) 福岡市美術館令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画について (2) 福岡アジア美術館令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画について

1 開会

2 総館長挨拶（内容省略） 福岡アジア美術館総館長 山方より挨拶

3 議題

(1) 福岡市美術館令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画について  
事務局（福岡市美術館）より報告

(2) 福岡アジア美術館令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画について  
事務局（福岡アジア美術館）より報告

会 長	それでは、福岡市美術館と福岡アジア美術館の説明について、ご質問や意見をおうかがいしたい。
委 員	アウトリーチ活動「どこでも美術館」は子ども向けにはしていないのでしょうか。また、いつ頃募集をされるのでしょうか。 令和2・3年度の2か年は、コロナにより臨時休館をしている期間があるが、3年度は前年度より観覧者が伸びている。何か努力・工夫した点があれば教えてほしい。
事務局 （福岡市美術館）	休館中は子ども対象にしていたが、現在は、子ども向けには院内学級や離島の学校など美術館に来ることが難しい学校のみ対象にしている。また、公民館の高齢者講座などにも行っている。募集は毎年3月末～4月中旬の期間行っており、3月末に各公民館に募集パンフレットを配布している。
事務局 （福岡市美術館）	令和2年度は、全館休館を余儀なくされ、大きな展覧会も中止となった。令和3年度は、緊急事態宣言中であっても一律に休館するのではなく、経済活動の一環として、特別展など一部の展覧会につ

	<p>いて開催ができるよう市の関係部署に掛け合うなど努力した結果、感染予防対策を行ったうえで一部開館することができた。</p>
委員	<p>中学校美術研究会の立場で、感謝を含めて意見を言わせていただきたい。令和2年の2か月半の臨時休校は、子どもたちにとって、とても大きな影響を与えた。</p> <p>来週、市美にて福岡市中学校美術展を開催していただくことはありがたい。子どもたちにとって、自分を表現・表出させる活動の場が大切だと思っているし、美術館が、視覚や嗅覚などの五感を通して学べる場としてあり続けてほしいと願う。</p> <p>学習指導要領で頻繁に使用される言葉として、「新しい意味を創る」・「自分なりの価値を創る」がキーワードになっており、主体的で対話型で深い学び、いわゆるアクティブラーニングを実践する場として、美術館教育が持っている可能性は大きい。</p> <p>例えば、現場の美術教師の研修で美術館の「どこでも美術館」の教材や、アジア美術館のアートカードを使用してワークショップをしてもらったことは、教育現場で活用できる美術館ならではの取り組みと、感謝している。ただ、現場での実施に繋がらないことは申し訳ないと思っている。今後も、子どもたちの多様性を育成していくために、学芸員のお知恵をお借りして良い教材ができることを願っている。</p>
事務局 (福岡アジア美術館)	<p>今年度はコロナにより思うように活動ができなかったが、来年度以降は、教育普及に力を入れていきたい。ひとつは、学校との連携。具体的には、学校の団体見学の時に、創造的に鑑賞できるように、中学校の美術教師だった方など外部の専門家の方と、一緒にワークシートまたはワークショップを作成していく。ふたつめ、レジデンス事業と絡む取り組みで、子どもたちにとってアジアのアーティストと接することは、貴重な体験になると考える。そういった機会をより多く作るためにオンラインだけではなく、新たなプログラムを形にしたい。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>子どもたちの体験的な機会の減少を危惧していると先生方からは良く耳にしている。当館では、体験的な活動を何としても死守していきたいと考えている。実は既に、委員からお話がある前から、「どこでも美術館」を使って、先生方にサンプルとなる授業をしてもらえないか考えていた。このことについては、後日相談したい。</p>
委員	<p>美術館は科学館と距離も近く、また市の施設である動植物園と連携し、科学的な視点や身体性を生かしたワークショップなどできる</p>

	<p>のではと思っている。</p> <p>他市の美術館を訪問した際に驚いたことがある。その美術館で、中学校3年生の生徒が夕方一人で鑑賞していたのを見かけたので声をかけたところ、幼少期にこの美術館のワークショップに参加したことがあり、模試が終わった後、気分転換で来館していたとのこと。学校を通した美術教育も大事だが、このように関心を持っている家庭と美術館が直接結びつくような仕組みもあっていいのではないかと感じた。小中学生の入場料が無料であることをどれくらい家庭が把握しているのだろうか。学校だけでなく、そういった方面での施策もあっていいのではないか。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>科学館との連携は休館中に行っていたことがある。しかし、最近には行っていないので、今後、再開していきたい。</p> <p>家庭に繋がる施策としては、例えば、今年度の当館のファミリーDAYについてインスタグラムに広告を出したところ、普段来館しない方にたくさんお越しいただいた。</p> <p>また、チラシについても、ファミリーDAYは市内の小学校2年生全員に、夏休みこども美術館はもう少し年齢の高い子ども向けなので小学校3年生や4年生全員に、と学年を決めて配布している。ファミリーDAYも夏休みこども美術館も、長年行っているということもあり、徐々に浸透してきており参加者も増えていると感じている。</p>
委員	<p>先日、美術館のゴッホ展の音声ガイドを利用した。BGMが流れており、音楽とともに鑑賞できたことに感動した。コンサートでアートとコラボしたものはあるが、展示室等で音楽を流すなどのコラボは難しいのか。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>音楽と作品のコラボは以前からあった。美術館(空間)において音を利用した展示効果を研究し、何度も試行してきたが、非常に指向性の高いスピーカーを用いないとノイズが発生するなど技術的な問題があった。特定の作品に個別の音楽を、というのは難しい。最近、指向性の高いスピーカーが販売されたが、非常に高価で施設が使用できるまでには至っていない。</p> <p>今後の技術的な進歩に期待するとともに、今回のゴッホ展のように効果的な音や音楽を使用することに、今後ともチャレンジしていきたいと考えている。</p>

委員	<p>音声ガイドにBGMをつけることについては、当施設でも実施を考えたところ、発達障がいのある方の中には、解説と同時にBGMなど別の音が入ると、解説が理解できなかつたり、絵が見れなくなつたりして苦痛に感じる方がいらっしゃる事が判明した。そのため、音声ガイドを作成する際、BGMを使用したものと音声のみの2種類を作成した。そのように選択できるようにすることが、バリアフリーの観点からも必要ではないだろうか。</p>
委員	<p>音楽と作品のコラボについては、専用のアプリを作成し、BGMを聞くかどうか利用者に委ねる方法で解決できるのではないか。また、そのアプリで作家が自分の作品を見るために選んだ音楽や、学芸員が作品を鑑賞するために選んだ音楽を聴けるようにするのも面白いと思っている。</p> <p>今回の報告を受けて、コロナ禍2年目に突入し来館者が伸びない中、両館とも様々な工夫を凝らし努力されていることに感心している。芸術が多様化していくことはもちろんだが、芸術を体験することで多様性が強化され、デジタルやオンラインを用いることで、作家・観客・作品という三角形の関係をより強く結びつけることができると考える。</p> <p>アジア美術館の資料 P.11 のオンラインレジデンスについてやり方やイメージを聞きたい。</p>
事務局 (福岡アジア美術館)	<p>令和4年2月～3月にインドネシアのムルヤナ氏とオンラインレジデンスを実施予定。レジデンス事業は文化庁からの補助金(アーティスト・イン・レジデンス)で費用を捻出している。アーティスト・イン・レジデンスは、本来、その土地に滞在して、そこでの体験、出会いの中で作品を制作するものであるが、コロナ禍の状況で入国ができないため、文化庁も、オンラインでもレジデンスとして認証するという事である。</p> <p>実施方法については各館に委ねられている。元々は、令和2年10月のまるごとミュージアムに出品することを目指してレジデンス事業を進めていたが、コロナで中止となり、次に、展覧会「水のアジア」の出品作家をレジデンスのアーティストとして招聘し、出品作品を制作してもらうことを考えたが、世界水泳などの延期にともない断念した。</p> <p>現在、ムルヤナ氏とのオンラインを使って福岡の街をリサーチしてもらっている。前回のオンライン会議では、スマートフォンを使って、ZOOMを繋げ、福岡の竜宮寺を案内した。複数回、リサ</p>

	<p>一ちしていく中で、ムルヤナ氏がどういった場所・人たちに興味をもつのか探っていく。今後も、定期的にZOOMでミーティングを行い、2～3月頃までに作品の制作・ワークショップを行い、出来上がった作品を送付してもらって館内に展示し、オンライントークを行うことを検討している。</p>
委員	<p>ネットを介して美術品を体験して頂くことも、美術館の成果としており、ネット上での観覧者も、観覧者数の成果として計上してもいいのではないかと考えている。</p> <p>最後に、美術界では、近頃、NFT (Non-Fungible Token) というキーワードが注目されており、このNFTについて、考えがあればご教示願いたい。</p> <p><i>(事務局補足) NFTアートとは、デジタルアートと仮想通貨のブロックチェーン技術を組み合わせたもの。ブロックチェーン技術を活用することで唯一性を証明し、デジタルアートを価値づけることができる。</i></p> <p><i>2021年3月、海外のオークションサイトで1つのデジタルアートが「約75億円」で落札され、このニュースをきっかけに「NFTアート」という言葉が注目された。</i></p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>NFTについては、市内にも関連企業が拠点を移すなど身近に動きがあるが、今のところ、実際に作家からオファーなどはない。今後の市場の予測はつかないが、引き続き情報収集を行っていきたい。</p>
委員	<p>田部光子展は取材が多かったとのことだが、どこからの取材があったのか。</p> <p>また、資料にある観覧者目標について、コロナが収束した上での人数なのかご教示いただきたい。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>1月5日から開催の田部光子展は、現時点で取材は新聞4社、ネットウェブマガジン1社から取材を頂いている。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>観覧者目標の考え方については、コロナ収束後も何らかの観覧者数の制限は残ると思われるため、特別展の観覧者数はコロナ前程には戻らないと考える。一方、市民ギャラリーの利用については、令和2年度は、主催者が感染拡大を懸念して中止することが多かったが、令和3年9月14日の再開館以降は主催者からのキャンセルはなく、それぞれ感染拡大対策の工夫をこらしながら開催している状況を加味し、来年度の目標を算定した。</p>

<p>事務局 (福岡アジア美術館)</p>	<p>アジア美術館でも同じ考え方で積算を行っている。令和3年9月14日の再開館以降、観覧者は戻ってきており、コロナ前の平成30年度の5割程度まで戻った。12月・1月頃にまた減ったが、コロナ前の7割近くには戻るのではないかと考える。</p> <p>令和4年度は、4つの協力企画展が開催されることに伴い、15.5万人を計上していることが観覧者増の要因となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>本協議会にお呼びいただいているのは、作家の視点からの意見を求められているからだと思う。それを含めて率直に意見を述べたい。</p> <p>福岡市の美術館を表現の現場としてみたとき、正直、あまり期待はない。それでも作家としてお声かけいただいた際に、展覧会や企画に参加させてもらっているのは、そこにはまだ、なにかを動かしていこうとする熱量をもった生身の“人”がいて、この人と全力で仕事がしたいと心から思えたから。</p> <p>そして、この公の現場を、あらゆる出会いに開かれたよりよき実験場として、最大限に活用するため。芸術の源には固まった地盤を「掻き乱す」エネルギー、「発酵させる」エネルギー、そして、「水をさす」エネルギーがあるのではないかと思う。</p> <p>福岡市美術館の方針に挙げられている「創造性に満ちた体験と新しい視点との出会い」とは、決して誰にとってもただ心地よく快適なだけの時空ではないはず。</p> <p>なぜ公立の美術館が必要なのか。  なぜ多目的ホールではダメなのか。  デパートの催し物会場と何が違うのか。  テーマパークと何が違うのでしょうか。</p> <p>“福岡アジア美術館”を訪れる者として、メインの企画展示室を明け渡し開催されている「ディズニープリンセス展」には大変困惑します。このような企画にホールを貸し出すことで館全体の入場者数の数字を取ろうとしているようにしか思えず、大変情けなく残念に思う。</p> <p>芸術文化の現場における公共性とは、一体なんなのでしょう。か。  「おおやけ」とは特定の立場の誰かにとっての都合のいい口実にされるような意味合いの“それ”ではないはず。です。</p> <p>どうか、考え続けてください。</p> <p>そしてみなさんそれぞれの日々の現場で、一つひとつの選択や行為の実践を通して、問い続け、応答し続けてください。</p>

	<p>こんな事をみなさんに言い放ち、ただ言い逃げしようなんて思っていません。ここで発言することにより、美術館という現場に少なからず関わってきた自分にも全て返ってきますし、私もみなさんと同じように日々リスクを覚悟して活動していきます。</p> <p>ぜひ、それぞれの持ち場で全力を尽くしましょう。</p> <p>本日お伝えした意見を、持ち帰っていただき、実践のなかで日々、問い続けてほしい。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>委員が今おっしゃったことを私たちが受け止めたかどうかを、これからの活動を以ってご判断いただけるように努力して参ります。</p>

4 総館長挨拶（内容省略） 中山福岡市美術館総館長より挨拶

5 閉会